

ケインズ学会 第1回大会 上智大学

# ケインズの構想と古典派価値論

中央大学

塩沢由典

# 論文の経緯

- 登録当初:「**二大価値論の分岐点**」
  - 単行本化『リカードも貿易問題の最終解決』(仮題、近刊) 第1章「二大価値論の分岐点」
  - 報告要旨が拡大⇒今回の報告
- ケインズの構想と古典派価値論**
  - 要旨、目次 (配布資料1)
  - 位置づけ: 中間生産物
  - 金融資産市場の分析 + 実体経済との関連を欠く。

# ケインズに戻れ( § 1.)

---

- リーマンショック>>欧通貨危機
- Wikipedia A4 16ページ
- 学術書
  - Skidelsky 2009 Keynes: The Return of the Master
  - Hirai, etc. (Ed.) 2010 The Return to Keynes
  - Harcourt 2011 書評 他に2冊
- 新しい運動
  - Institute for New Economic Thinking
  - Open letter to Mankiw 11.2

# いかなるケインズか( § 2.)

---

- 1975年以降? New Keynesians?
- 1936～1975年代まで(Coddingtonによる)
  - 原理主義
  - 水力学派
  - 再建還元主義
- ケインズ自身? 例: Harcourt(2011)
- いずれも不十分? 本報告の立場

# ケインズ経済学の失敗

---

- 1980年代以降のケインズ反革命
  - なぜNew Classicalが登場できたのか？
  - New Keynesiansはなぜダメなのか？
- さまざまなKeynesians?
  - やれることはほぼ尽くされている。
- 原点に帰る？『一般理論』かKeynes？
- なぜKeynesは失敗したのか
  - 構想は良かった。基礎の経済学に問題。
  - Marshallの経済学（Keynesが古典派と呼んだもの）

# 新しい挑戦( § 3.)

## ●ブレイクスルーが必要

- Keynesの(部分的に)成し遂げたこと

- 市村惇信『ブレイクスルー のために』

  - ◆ 追究しなければ確率はきわめて低い。

  - ◆ 現在の理論や技術の「可能性の限界」

## ●既存の追求方向:「のびしろ」が小さい。

⇒基礎理論の取替え

## ●二大価値論という捉え方

# 経済学における二大価値論

## ● 価値論: 相対価格の理論

- Hicks, Value and Capital; Debreu, Theory of Value
- 『一般理論』第21章(価値の理論vs.貨幣および物価の理論)

## ● 古典派価値論 vs. 新古典派価値論

- Ricardoが典型(利潤を含む)、Marx, Sraffa, ...
- A. Smithには混在、リカード反動(M. Dobb)
- Ricardoは「需要供給の理論」を俗説として否定

# 価値論の分岐点

---

## ● J.S. Mill 比較生産費説の解釈

- 国際価値の不確定問題 20代前半
- 2国2財完全特化の場合⇒相互需要説
- 『原理』: 古典価値論と需要供給の理論の並存

## ● 新古典派の価値論(Catallactics)

- なぜ19世紀後半のCatallactics?
- Mill > Jevons, Edgeworth, Marshall

## ● なぜ？



# 古典派価値論の「弱い環」

## ● 国際価値論 価値論の修正問題

- Ricardo 第7章 Marx 第I巻第22章
- 日本:1940-60 国際価値論争

## ● 国際貿易論

- HOS理論、新貿易理論、新々貿易理論
- McKenzie & Jones (1954~1961)

## ● リカード貿易理論の新構成(2007)

- 原材料の貿易(McKenzie & Jonesができなかったこと)
- 『リカードも貿易問題の最終解決』第2章。

# 古典派価値論の再構成

## ●理論的部分

- Ricardo 労働投入 × 媒体占有時間(藤本隆宏)
- P. Sraffa 『商品の商品による生産』
  - ◆ 耐久資本(von Neumann)、土地(地代)
- 塩沢由典 国際価値論

## ●経験的部分

- Oxford経済調査(Full Cost Pricing) § 4.
- 塩沢「上乗せ価格を帰結する複占競争」(1984)  
新刊本の第4章

# 古典派価値論 vs. 新古典派価値論

## ●新古典派価値論

- 所与の資源の活用(野下: 経済を資源配分として)
- 地下資源・資本:完全利用 労働:完全雇用
  - ◆一般均衡理論
  - ◆HOS理論(国際貿易)
- 非貨幣的(貨幣:第N+1番目の財)

## ●古典派価値論

- 生産費が価格を決める。→フルコスト
- 散逸構造(Dissipative Structure<Prigogine)

# 散逸構造の一例：ろうそくの火

## ●環境

- 酸素を含む空気
- 空気の循環

## ●火/蝋燭の芯

- 熱で蝋を溶かし、吸い上げる。

## ●火が資源使用量を決める。



# ケインズの構想の古典派的側面

- 経済が資源利用量を決める。
  - 資本稼働率、雇用率/失業率
  - 土地・地下資源の利用率
- 価格調節と数量調節の(暫定的)独立
- 貨幣経済
- 古典派経済学(Ricardo, Marx)
  - 経済(人口、食料需要量)が限界耕作地を決定。
  - 自然価格、価格ですべてを調節しない。
  - 貨幣経済(とくにMarx: M-C-P-C'-M')

# 過程分析1( § 5)

---

## ●過程分析

### ■期間分析との相違

◆Hicksの週 期間の内部は均衡

■一時均衡の移動ではない。

## ●基本

■経済主体が一時に一つ行動する。

■視野・合理性・働きかけの限界

■定型行動/プログラム行動

■相対取引(例:売手が価格、買手が数量を決定)

# 過程分析2 Monetary theory of production ( § 6.)

---

## ● Patinkin vs. Clower

- **Clower:** 貨幣は財を買い、財は貨幣を買うが、財で財を買うことはできない。
- **Patinkin:** 貨幣は財を買うが、財は貨幣を買わない。

## ● どちらが正しいか

- **Clower:** より Neo-Walrassian的
- **Patinkin:** タルムードの影響?

# カルビーの広告(1977)

- [http://www.youtube.com/watch?v=k\\_tiFTEHJzY](http://www.youtube.com/watch?v=k_tiFTEHJzY)



百円でカルビー・ポテトチップスは買えますが、カルビー・ポテトチップスで百円は買えません。あしからず。



# 古典派の伝統におけるケインズ(§7)

## ● マークアップで価格決定

■  $w \mathbf{a}_0 + A \mathbf{p} = \mathbf{p}$  係数を修正

## ● 最小価格定理(非代替定理<Samuelson)

◆ 適切な $\mathbf{p}$ を取れば、第 $j$ 財を生産する(可能な)任意の技術 $T$ について

$$w \mathbf{a}^T_0 + \langle \mathbf{a}^T, \mathbf{p} \rangle \geq \mathbf{p}^j$$

◆ 各財 $k$ につき適切な技術 $T$ があつて

$$w \mathbf{a}^T_0 + \langle \mathbf{a}^T, \mathbf{p} \rangle \geq \mathbf{p}^k$$

## ● 最終需要の構成が変化

■ 最小価格定理 → 価格の変化は不要。

# 古典派価値論と数量調節( § 8.)

## ● 価格決定と数量決定

- 相互に一定の独立性をもつ。
- 数量とは独立に価格を決めうる。(P. Sraffa)
- 価格が動いても、一定の数量関係がありうる。

## ● 最終需要 $I + C (+Ex)$ が一定なら

最小価格定理から雇用労働量  $L$  が決まる。

$$L = \langle \mathbf{a}_0, \mathbf{y} \rangle, \quad \mathbf{y} - \mathbf{y}A = I + C (+Ex) \text{ [ベクトル]}$$

## ● Hicks, 森嶋通夫 固定価格の方法?

# 過程分析における有効需要( § 9.)

## ● 谷口・森岡の定理

消費需要  $I$  最終需要が緩やかに変化するなら、過去の売行きの数期平均により、生産は基本的には需要に追隨できる。

## ● $C$ が長期に低迷(日本:失われた20年)

- $I$ を拡大するインセンティブなし。
- $G$ を短期的に増やしても、 $I$ を増やす決断は？
- 政府投資の無効性

# 設備投資と利子率( § 10.)

## ●ケインズの「資本の限界効率」

- 内部収益率と同概念

- この場合の投資は？

  - ◆ 証券投資？

  - ◆ 実物投資？（生産設備建設への投資？）

## ●もし実物投資なら

- $r^* > i$ でも製品に対する需要の伸びが見込めなければ、投資はしない。

- 数量と価格[利子率]の分離

# 金融資産市場と実体経済( § 11.)

## ● 実体経済と金融資産市場との分離

- 実体経済 古典派価値論、フルコスト原理
- 金融市場 原価なし。価格理論は？

## ● 金融資産市場の経済学

## ● 相互の関係

- 実体経済 → 金融市場 過剰貯蓄( $S > I$ )
- 金融市場 → 実体経済 貨幣不足 > 有効需要不足

# 中間的結論 ( § 12.)

---

- 金融資産市場と実体経済の2重経済
- 実体経済
  - 古典派経済学の上にケインズを再構成できる。
- 金融市場
  - 信用創造論(貨幣創造)
  - 過剰資金の金融資産市場での運動
- 相互作用の分析